第 796 回 新潟医学会(オンライン講演会)

第 796 回新潟医学会・オンライン講演会を下記の要領によって開催致しますのでご案内申し上げます。

大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の出席を歓迎します。参加料は無料です。

ZOOM URL については新潟医学会事務局にメールでお問い合わせください。

日時 令和 7 年 7 月 19 日 (木) 18:00 から

新潟医学会集会幹事

記

I. 特別講演 (18:00~18:30)

座長 寺井 崇二 先生 (消化器内科学 教授)

「A 型肝炎と E 型肝炎の現況と今後の課題」

神田 達郎 先生

(魚沼地域医療教育センター消化器内科 特任教授)

A 型肝炎ウイルスおよび E 型肝炎ウイルスは汚染水や汚染食材を介してヒトに経口感染し、それぞれ A 型肝炎および E 型肝炎を引き起こす。A 型肝炎は MSM を中心とした性感染症の一つとしても重要である。E 型肝炎は急性肝不全や高齢者・免疫不全患者では慢性肝炎・肝硬変の原因となることが明らかとなってきた。AMED 研究班で作成した経口肝炎ウイルスガイドラインを中心に両ウイルス感染症の特徴や問題点、今後の課題等についてご紹介する。

II. 特別講演 (18:30~19:00)

座長 齋藤 理恵 先生 (脳疾患標本資源解析学 助教)

「進化的視点から見る APOBEC3 とがん」

藤戸 尚子 先生

(システム脳病態学・進化脳病態 准教授)

APOBEC3 は抗ウイルス因子として知られており、侵入してきたウイルスのゲノムに突然変異を起こすことでウイルスの増殖を抑制している。しかし、その突然変異源としての性質は諸刃の剣ということもでき、APOBEC3 ファミリー遺伝子の一つである APOBEC3B (A3B) の欠失はがんとの関連が繰り返し報告されている。この A3B 欠失多型はヨーロッパやアフリカでは非常に低頻度にはしか見られないが、東アジア人には多く、日本人では 35%もの高頻度で見られる。本発表ではその進化的背景を紹介したい。

III. 特別講演 (19:00~19:30)

座長 梅津 哉 先生 (病理部 准教授)

「がんの病理分類と病理診断」

大橋 瑠子 先生 (臨床病理学 教授)

近年の医療技術の進歩に伴い、がんの病理分類は大きく変遷を遂げてきた。また、それに伴い、適切な治療選択のために臨床現場で求められる病理診断の在り方や方法論も変わりつつある。本講演では、演者の研究成果と国際的ながんの病理分類及び病理診断報告様式の取扱い規約である WHO 分類と International collaboration on cancer reporting (ICCR) の改定に参画した経験を踏まえて、現代におけるがんの病理分類と病理診断について概説する。

IV. 特別講演 (19:30~20:00)

座長 柿田 明美 先生 (脳研・病理学 教授)

「患者剖検脳を用いた遺伝性白質脳症の病態研究」

他田 真理 先生

(脳疾患標本資源解析学 教授)

遺伝性白質脳症の中には、グリア細胞の機能異常が病態の中心をなす疾患群があり、グリオパチーと総称されている。これらの疾患の病態を明らかにすることは、白質の恒常性維持機構の理解につながる。近年、解像度の高い網羅的分子発現解析技術が進歩し、患者剖検脳から直接的に疾患の分子基盤を探るアプローチが可能となりつつある。本講演では、グリオパチーを対象にこれらの新たな手法を活用して得られた知見を紹介し、病態を考察する。

新潟県医師会生涯教育講座の認定を申請しております。

大 学 院 特 別 講 義

(連絡先)新潟医学会事務局

TEL 025-227-2032

e-mail igakukai@med.niigata-u.ac.jp